

サイエンスアカデミー

中学3年コース（生物）報告

- ◇期 日 令和3年11月6日(土)
- ◇場 所 本校 生物実験室
- ◇参加者 県内の中学3年生 24名、本校SS生物部員3名、SS生物部顧問真野先生

サイエンスアカデミーは理科や数学に対する意欲関心の高い中学生を増やすことを目的に、数学、物理、化学、生物の各分野で開講される。今回は生物分野が行われ、SS生物部員がTA(ティーチングアシスタント)として参加した。

今回のテーマは「視覚について」であった。中学校でも、眼について少し学習する。しかし、中学校で習うよりも発展的な内容が取り上げられた。私たちが見ているものは眼から受容する刺激と経験がもとになっているということを学んだ。そのうえで、神経と眼のつながりに関する、京都大学の入試問題に取り組んだ。参加した中学生は「京都大学」と聞いて最初は身構えた様子だったが、互いに話し合い、協力しながら、問題に挑戦していた。さらに、自分の眼の盲斑の形と大きさを求める実験を行った。実験方法はそれぞれのペアが自由に考えるものだったので、中学生たちは主体的に自分たちで実験計画を立てて、それに合わせて必要な実験物品を選び、工夫を重ね、さまざまな実験方法を考察していた。彼らの豊かな発想力や、実験に苦戦しながらも、あきらめずに試行錯誤して実験を進めていく姿に感心させられた。実験によって自分の盲斑の形を知った中学生たちは、どこか嬉しそうだった。

今回私は初めてサイエンスアカデミーにTAとして参加した。サイエンスアカデミーは、中学生に科学の面白さを感じてもらおう活動である。しかし、中学生とのふれあいを通して、目の前にあるデータや現象に「なぜ？」という疑問を持ち、自分の力で追究する面白さを、私も改めて感じる事ができた。

(17H SS生物部 岡本記)

